



「皮膚科 遠藤医師による
健康教室」
平成29年3月15日(水)

No.
12



北海道病院だより

病院理念

地域の人々を中心とした
質の高い医療・介護を提供し、
地域から信頼される病院に
なります。

基本方針

- 1.一人一人の権利を尊重し、人間愛を基調とした医療・介護を行います。
- 2.安全を第一に説明と同意に基づく医療・介護を行います。
- 3.地域との連携を推進し、求められる医療・介護を行います。
- 4.地域の健康増進をめざし、保健予防活動を推進します。
- 5.地域医療機能の推進をもって医療・医学の発展に貢献します。



「Aiを用いた検案・解剖」を聞いて

副院長 広瀬 崇興

2月22日に北海道大学大学院医学研究科・医学部 死因究明教育研究センター(法医学部門)特任准教授の兵頭秀樹先生に「Aiを用いた検案・解剖」のテーマで院内講演を頂きました。

AiとはAutopsy(剖検)imaging(画像診断)の略で、亡くなった方の全身をCTなどで撮影し、解剖以外の方法で死因の究明ができる「死後画像診断」のことです。

講演内容としては、国の政策として今後死因究明が重要視されていること。Aiを行う拠点施設が全国に数か所作られ昨年4月から北大にも上記センターが設置され、専用のCT装置の導入の他、病理学、法医学、放射線診断学などと共同で究明が可能になりつ

つあること。死亡直後の血液や生前の画像を合わせて検討することにより、より死因の究明が正確になること等でした。具体的には、死後の時間経過とともに生体CT像とは異なった所見に変化しますが特に体内の出血所見などは重力や腐敗などの影響で変化し、血管の拡張や収縮状態も生体とは異なるそうです。さらに心臓マッサージなどの救命処置で特殊な所見が現れることなどのお話を聞かせて頂き、大変勉強になりました。



「臨床研究の倫理」

副院長 秋山 也寸史

平成29年2月15日JCHO北海道病院医療倫理講演会

特別講演「臨床研究の倫理」

北海道大学病院臨床研究開発センター長 佐藤 典宏 教授

平成27年4月1日に文部科学省と厚生労働省の共管告示として施工された「人を対象とする

医学系研究に関する倫理指針」をどのように理解し守っていくかについて、膨大な内容を理解しやすく

整理してお話をいただきました。

まとめますと、まず研究責任者は個々の研究にこの指針が適用される臨床研究であるか否かを考えます。適用される場合にこの指針を守るためのポイントは、その研究がどの程度の侵襲あるいは介入を含んでいるかで、研究の分類と手続き(同意取得の方法も含めて)がそれにより異なります。倫理審査委員会は、その臨床研究に直接関与する者から独立した立場で、研究の科学性および倫理

性を審議します。

当院は急性期病院として今後とも臨床的な機能と責任を果たすのに加え、学術、研究の面でも職種に関わらず各領域で存在感を増していくことが必要です。

今回の講演が病院全体の臨床研究の質の向上に役立つこと願っています。

医療講演会



「北海道病院における陽子線治療」

03

副院長 数井 啓蔵

**2017年1月19日、JCHO北海道病院講堂において、
北海道大学放射線科・助教の加藤徳雄先生をお招きし、「北海道病院における
陽子線治療」についてご講演いただきました。
医師、コメディカルを含め37名の参加がありました。**

陽子線治療は、「陽子」を加速させたものを体外から病変に当てて治療を行います。陽子線には、到達深度の終わり近くでエネルギーの大半を放出する「ブレーブピーカー」という物理学的特性があり、病変部の近くでエネルギーの大半を放出してしまうので、病変の後ろには陽子線はほとんど当たりません。

北大ではさらにスポットスキャニング法という、腫瘍を照射する陽子ビームを細いままで動させてピンポイント照射する技術です。また、呼吸、心拍で動く癌の場合、動態追跡照射という技術も開発

しました。

現在保険適応は、小児がんに限られ、他の疾患では陽子線は先進医療として認められ、通常の治療と共に通する部分は保険診療の対象となります。陽子線治療費用は約284万円～305万円となります。

症例としては、巨大肝癌、局所進行肺癌、肺癌などが提示されました。

認知症サポーター養成講座を開催しました!

介護予防センター中の島 佐々木 直哉



平成29年1月～2月にかけて全4日間で北海道科学大学高等学校の1年生の約200名を対象に「認知症サポーター養成講座」を開催しました。当センターでは、縁あって平成18年より北海道科学大学高等学校において年1回、認知症についての授業を行っています。

認知症サポーター養成講座は、認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)の施策の1つで、認知症に関する正しい知識と理解を持ち、地域住民や企業等で認知症の人や家族に対して出来る範囲での手助けをする、「認知症サポーター」を養成するものです。

今回は日頃より認知症の高齢者の介護に従事している附属老健の介護福祉士に講師を依頼し、認知症の基本理解と地域での関わり方について、グループワークを中心に講座を展開しました。

講座を終えた学生の中には、「(自分の)おばあちゃんともっと関わってみようと思った。」と認知症の家族にもっと関わろうと考えるようになったり、

「道に迷っている高齢者を見たら声をかけてみる!」と、認知症が身近な病気として捉えられるようになった方もいたようでした。認知症になんでも安心して生活し続けることができる地域を作っていくためには、若い頃から認知症の正しい知識を学ぶことが大切だと考えます。

「認知症サポーター養成講座」は企業や医療・福祉に従事する職員向けにも開催しています。開催のご希望がありましたら、当センターへぜひご相談ください。



介護予防センターとは…

地域包括支援センターを補完する役割を持つ組織として、札幌市内に53カ所設置されています。当センターは、附属介護老人保健施設が札幌市から委託を受け設置され、「中の島・平岸」2つの地区を担当し、「介護・福祉に関する総合相談の窓口」、地区組織と連携し、地域住民の介護予防を目的とした「介護予防事業」、地域で活動するボランティア団体の支援を行う「ボランティア人材育成支援」の3本柱で業務を行っています。

介護予防センター中の島

札幌市豊平区中の島1条8丁目3番18号 JCHO北海道病院附属介護老人保健施設内
Tel 011-813-3311

医療福祉従事者向け勉強会の実施報告

『死に寄り添うということ』～臨床死生学～

附属介護老人保健施設 真壁ひとみ(介護福祉士・看取りケア委員長) 上山真弓(看護師長)

去る1月27日と3月11日に日本ケア・カウンセリング協会 代表理事 品川博二先生(聖路加国際病院 精神腫瘍科 臨床心理士)をお招きし、「ターミナル・ケアの心理学」臨床死生学について講義していただきました。住み慣れた地域で、より豊かな人生を送るために、支援を受ける側・受けられる側の双方にとって肯定的な関係性とは何か、日頃からより良く生きること・より良く生き抜くことに必要なマインドを学びました。ターミナルと聞くと暗い印象もありますが、研修を受けてからは、心の中の大切な人と共に生きる方法やこの学びを意識しながら過ごすことが出来ています。また、品川先生は自分の考えをより意識させるために、隣席者と話す時間を多く設定します。施設内研修では院内職員だけですが、

今回は他事業所の方と体験談や悩み事・相談事などを共有することで振返りもでき、お互い良い刺激を受けることができました。

この研修会は、地域の医療福祉従事者の方にも受講していただき、3月の施設見学会には多くの方が参加してくださいました。開催側の思惑としては、医療福祉従事者の方々が臨床死生学を共に学び、より多くの方と分かち合い、ケアを提供してもらうことがJCHO理念にある「安心して暮らせる地域づくりへの貢献」に繋がると確信し、実現できた研修会でした。より多くの皆さんにとって、出逢えたことを感謝できる人生となるよう、これからも寄り添うケアについて職員一丸となって取組んでまいりたいと思います。



お知らせ

研修会を実施しました。

第8回 豊平区ブルーサークル

平成29年2月10日(金) 当院講堂

参加者／院内20人 院外26人

講演

「糖尿病治療薬を見直そう～患者に役立つ指導をするために～」

医療法人 満田記念病院 薬局長 中野玲子先生



第45回 札幌南部呼吸器懇話会

平成29年2月14日(火) 18:30～ 当院講堂

参加者／院外17人 院内15人

講演

「呼吸リハビリテーション：こんなに有用！」

JCHO北海道病院 呼吸器内科 原田敏之

JCHO北海道病院 リハビリテーション部

尾山陽平先生



災害救急 指定日

〈平成29年〉
5月11日(木)・5月27日(土)・6月7日(水)・6月27日(火)

※災害救急指定日は、やむを得ぬ事情により変更する場合があります。毎日の新聞紙等でご確認ください。



JCHO北海道病院

〒062-8618 札幌市豊平区中の島1条8丁目3-18

TEL 011-831-5151(病院代表) URL <http://hokkaido.jcho.go.jp>

〈医療機関専用：地域連携相談室直通〉

TEL 0120-515-830 / FAX 011-815-1005



↑QRコード読みで
病院ホームページへ

